

2017年度決算の概要

(2017年4月1日～2018年3月31日)

ご説明資料



“特殊”だけど“身近”な「特殊鋼」



山陽特殊製鋼株式会社



<http://www.sanyo-steel.co.jp>

目次

1. 2017年度決算の概況

損益の概要

業績推移(年度、四半期)

経常利益の変化要因

(2016FY→2017FY、2017FY上期→2017FY下期、2017FY3Q→2017FY4Q)

原燃料価格の推移

セグメント別損益、セグメント別損益推移(四半期)

貸借対照表

キャッシュ・フロー計算書

D/Eの推移

(参考)設備投資・減価償却費の推移

期末配当金について

2. 2018年度業績予想等

2018FY業績および配当予想

経常利益の変化要因(2017FY→2018FY予想)

3. 参考資料

財務指標の推移

その他のトピックス

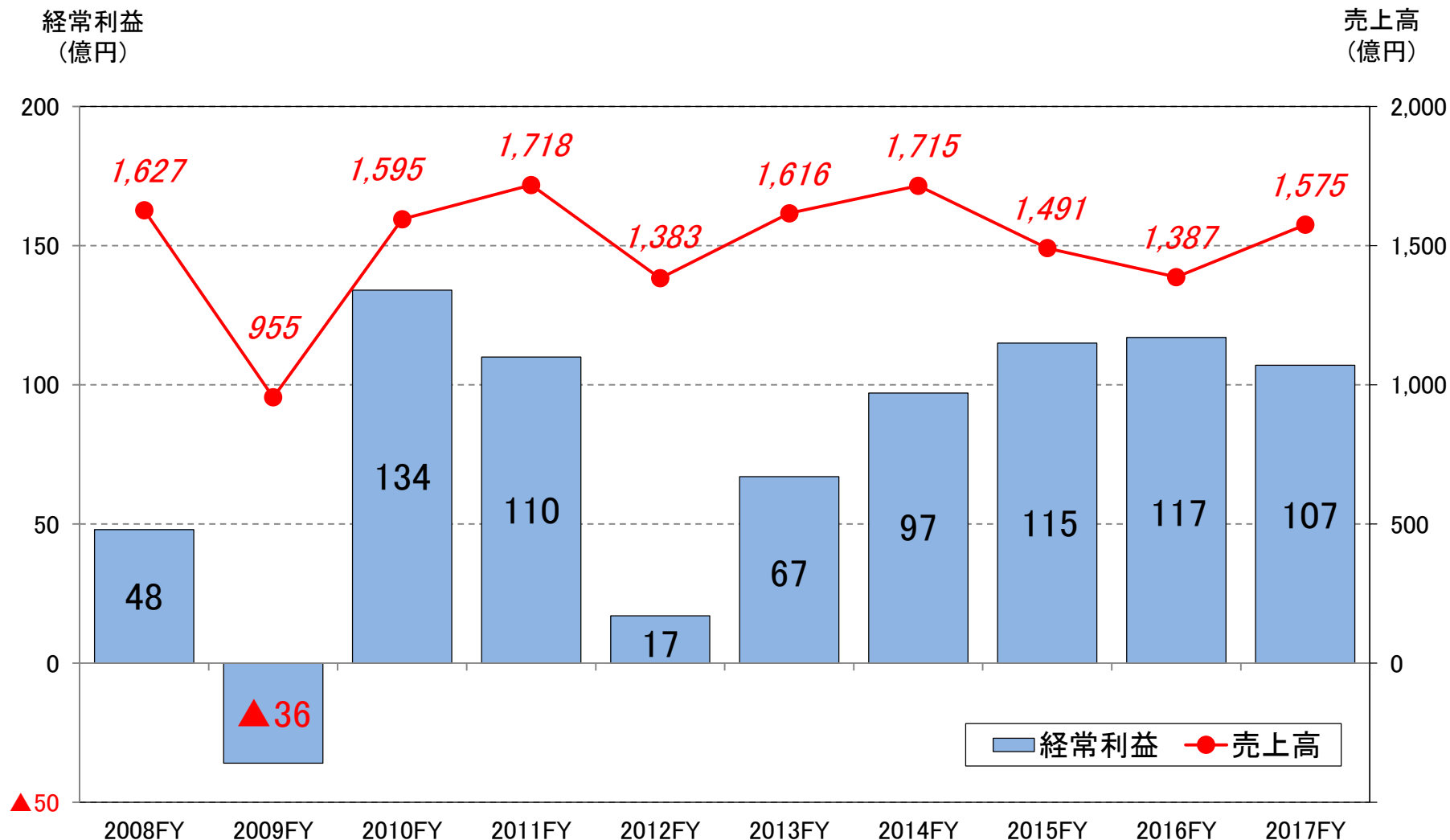
損益の概要

(単位:億円)

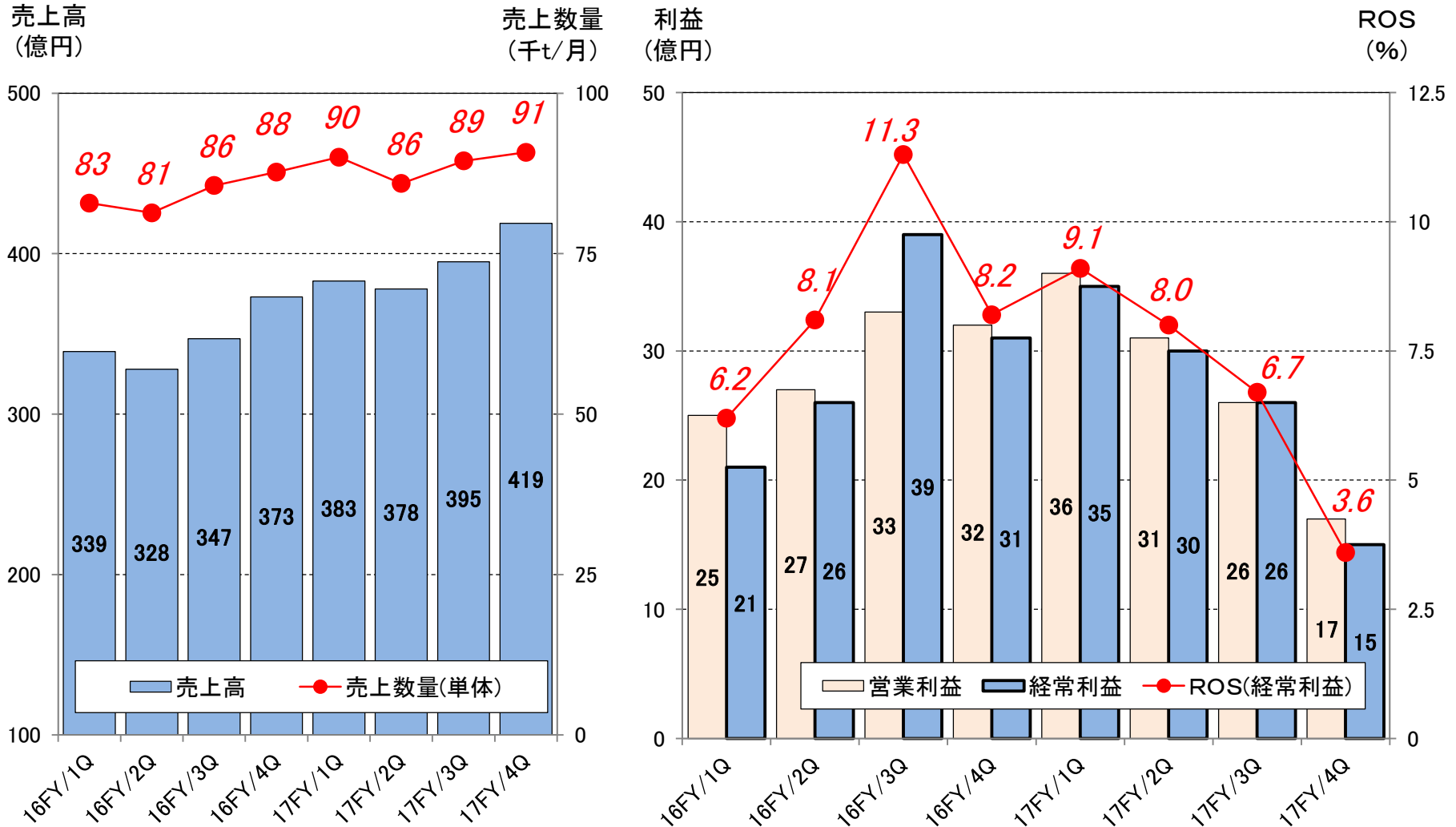
	2017FY (A)		2016FY (B)		対前年度 (A)－(B)		2017FY業績予想 (2017/10/27公表)	
	金額	売上高 比率(%)	金額	売上高 比率(%)	金額	増減率 (%)	金額	売上高 比率(%)
売上高	1,575	100.0	1,387	100.0	+188	+13.6	1,500	100.0
営業利益	110	7.0	117	8.4	-7	-6.1	118	7.9
経常利益	107	<i>ROS</i> 6.8	117	<i>ROS</i> 8.5	-11	-9.2	118	<i>ROS</i> 7.9
当期純利益 ^(注)	70	4.5	78	5.6	-7	-9.6	78	5.2
ROE(%)	5.6		6.6		-1.0			

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益

業績推移(年度)

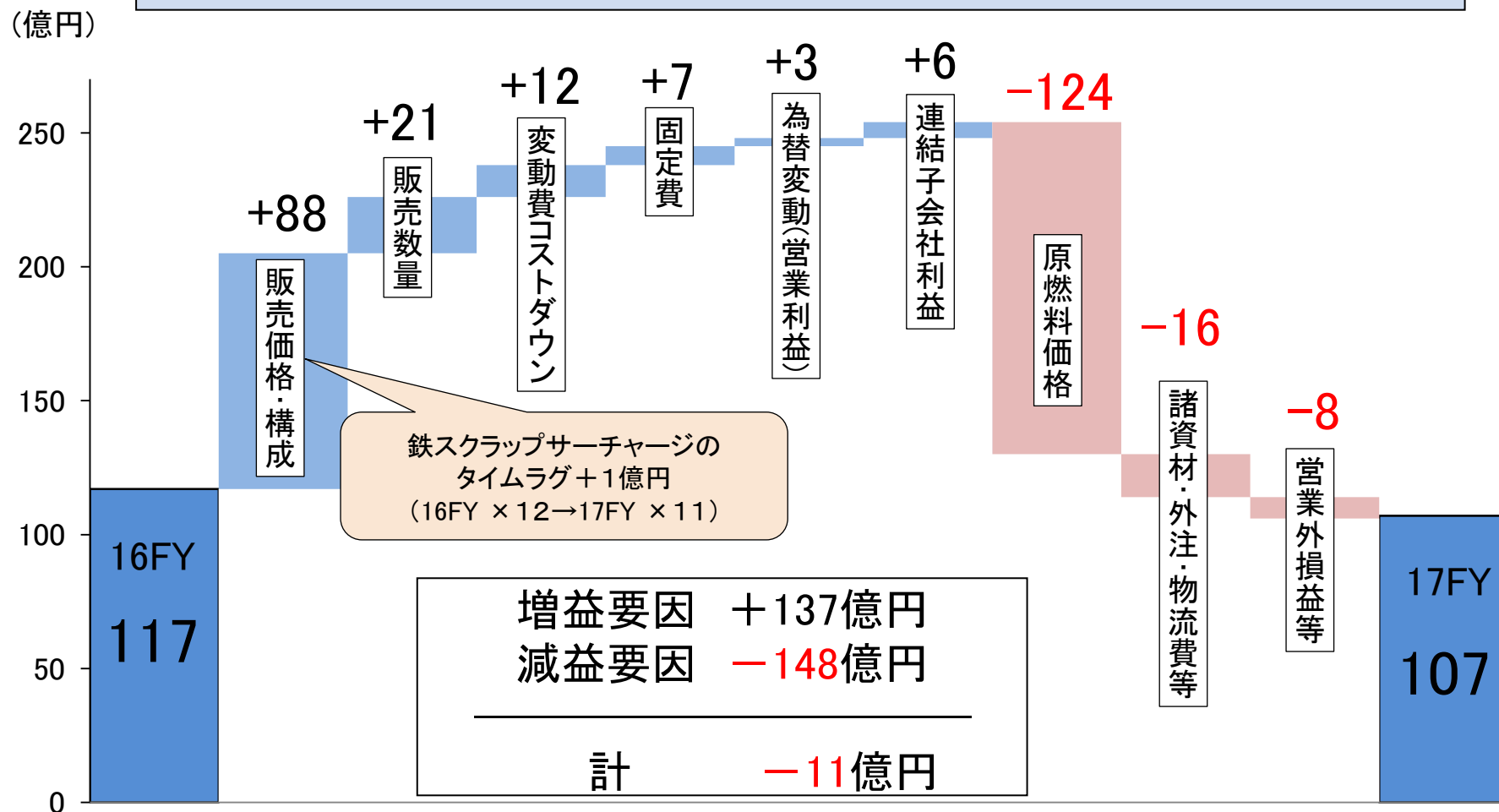


業績推移(四半期)

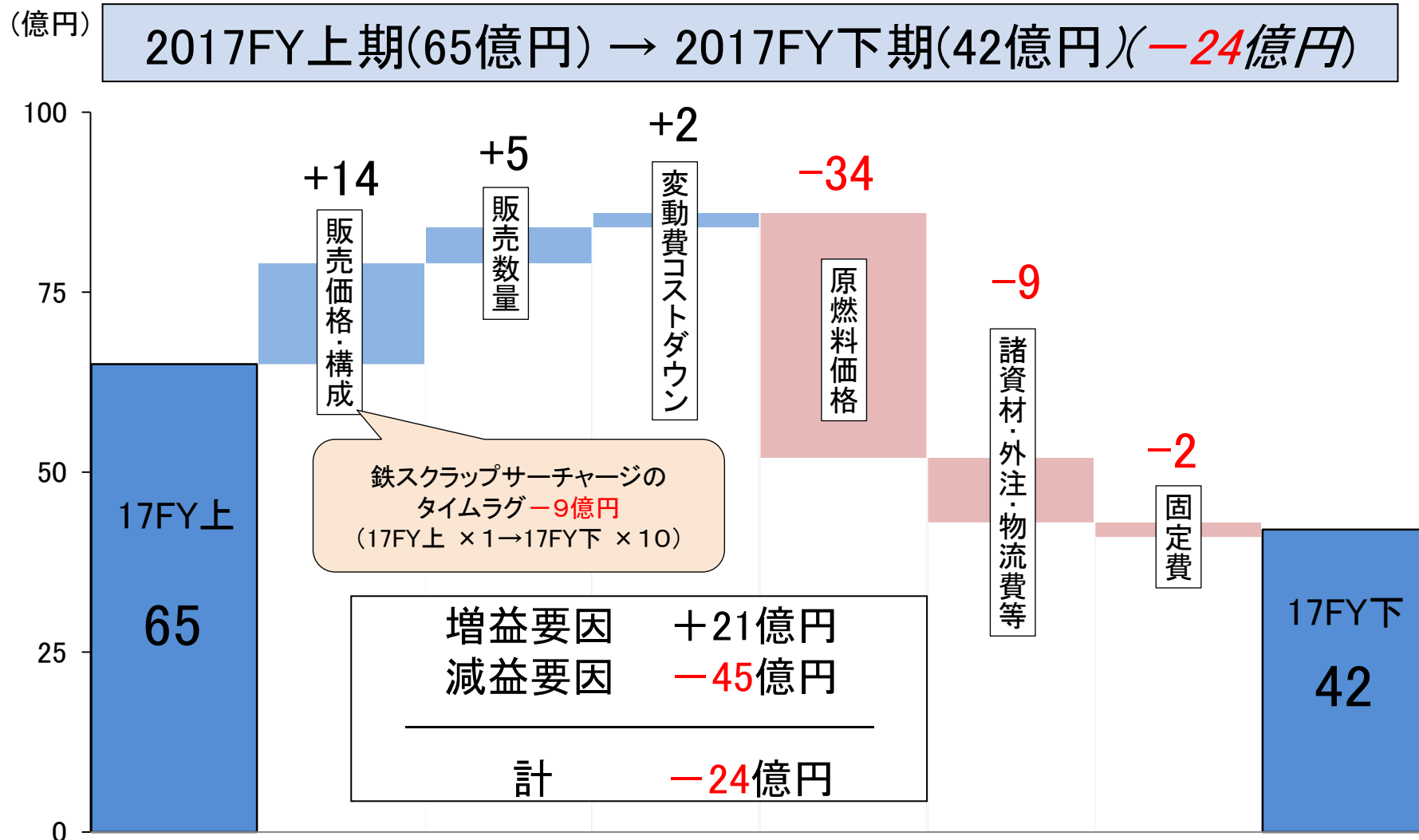


経常利益の変化要因

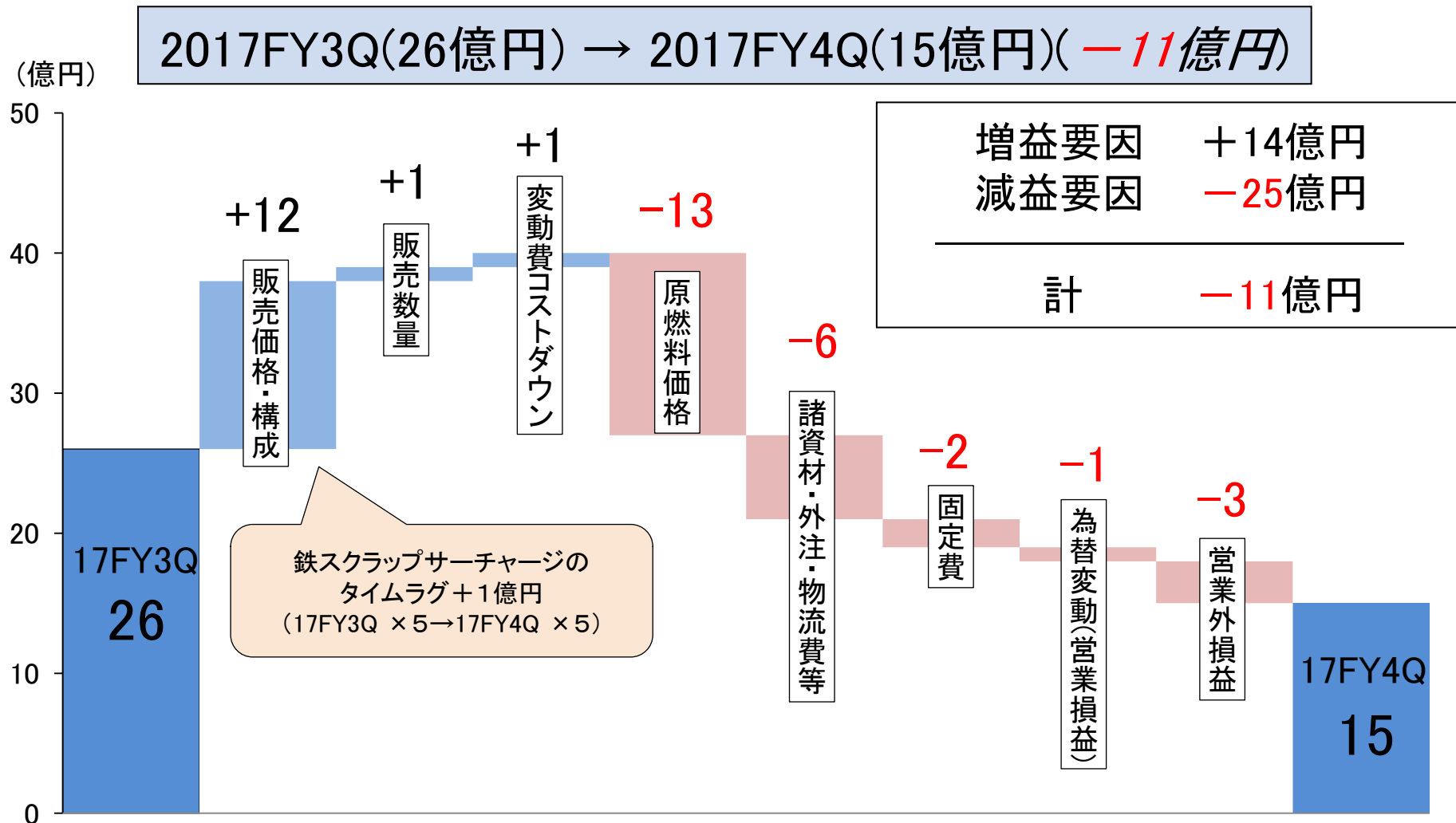
2016FY(117億円) → 2017FY(107億円)(**-11億円**)



経常利益の変化要因

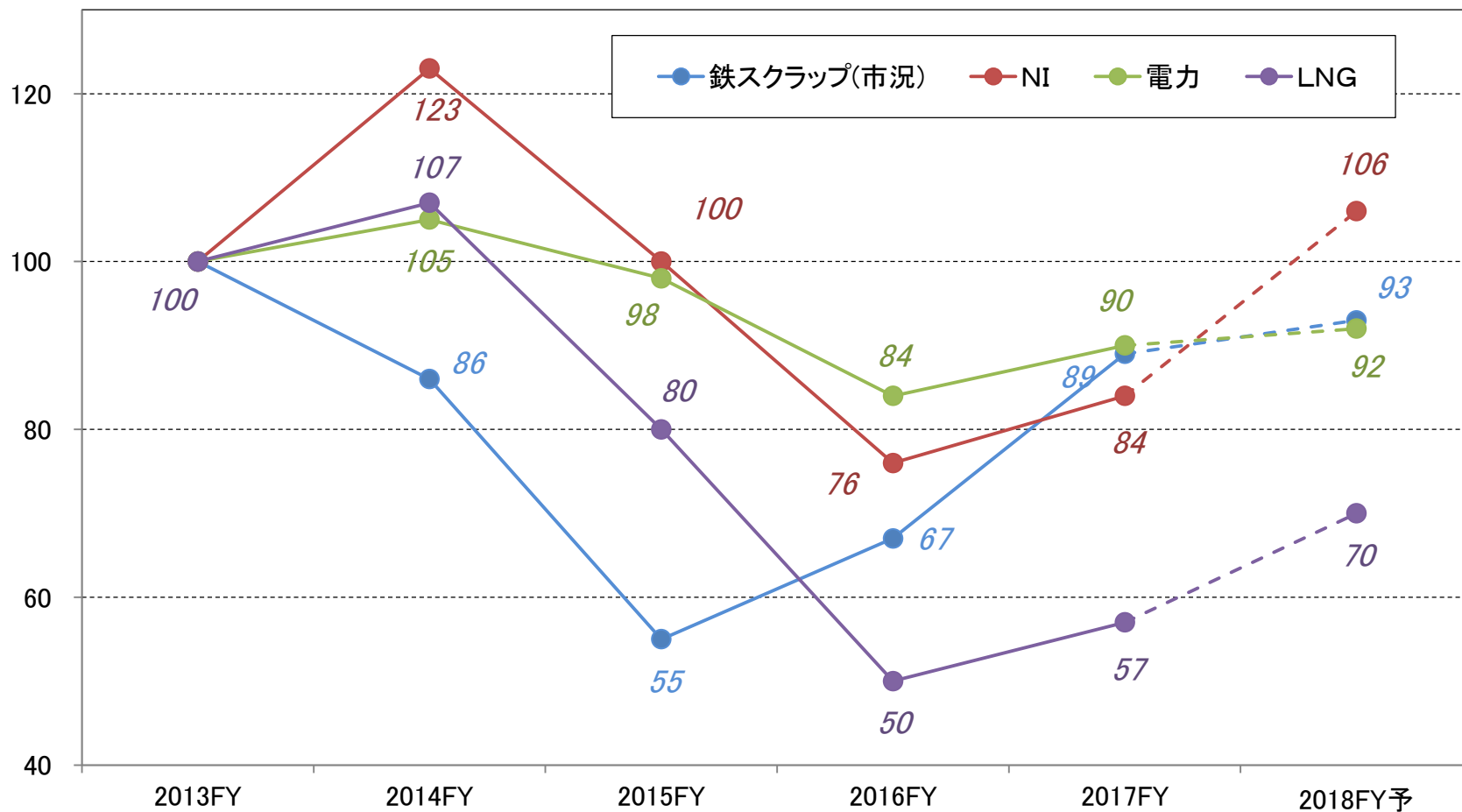


経常利益の変化要因



原燃料価格の推移

(2013FY を100とした指数表示)



(注)購入価格ベース

セグメント別損益

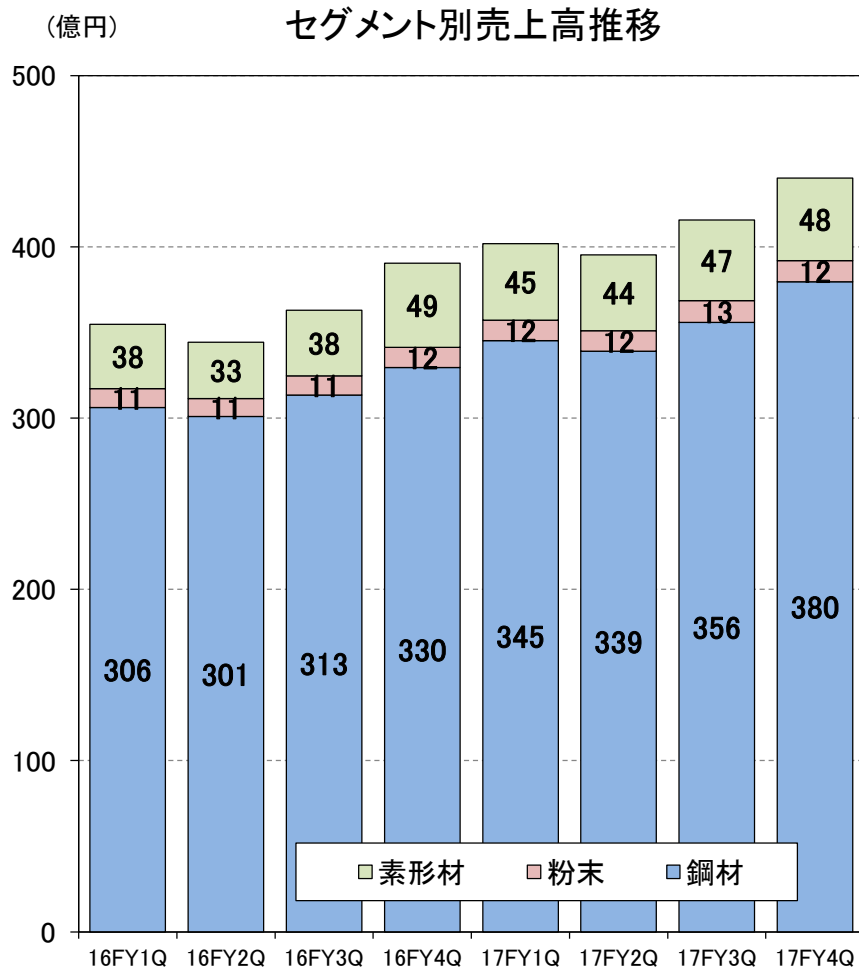
(単位:億円)

	2017FY(A)			2016FY(B)			対前年度(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業 利益率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業 利益率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業 利益率(%)
鋼材(注)	1,420	97	6.8	1,250	99	7.9	+170	-2	-1.1
粉末(注)	49	9	18.8	45	9	20.9	+4	-0	-2.1
素形材	184	8	4.2	158	7	4.7	+26	+0	-0.5
小計	1,653	114	6.9	1,453	115	8.0	+201	-2	-1.1
その他	15	0	1.8	17	1	3.4	-1	-0	-1.6
調整額	▲94	▲4	—	▲83	1	—	-11	-5	—
連結計	1,575	110	7.0	1,387	117	8.4	+188	-7	-1.4

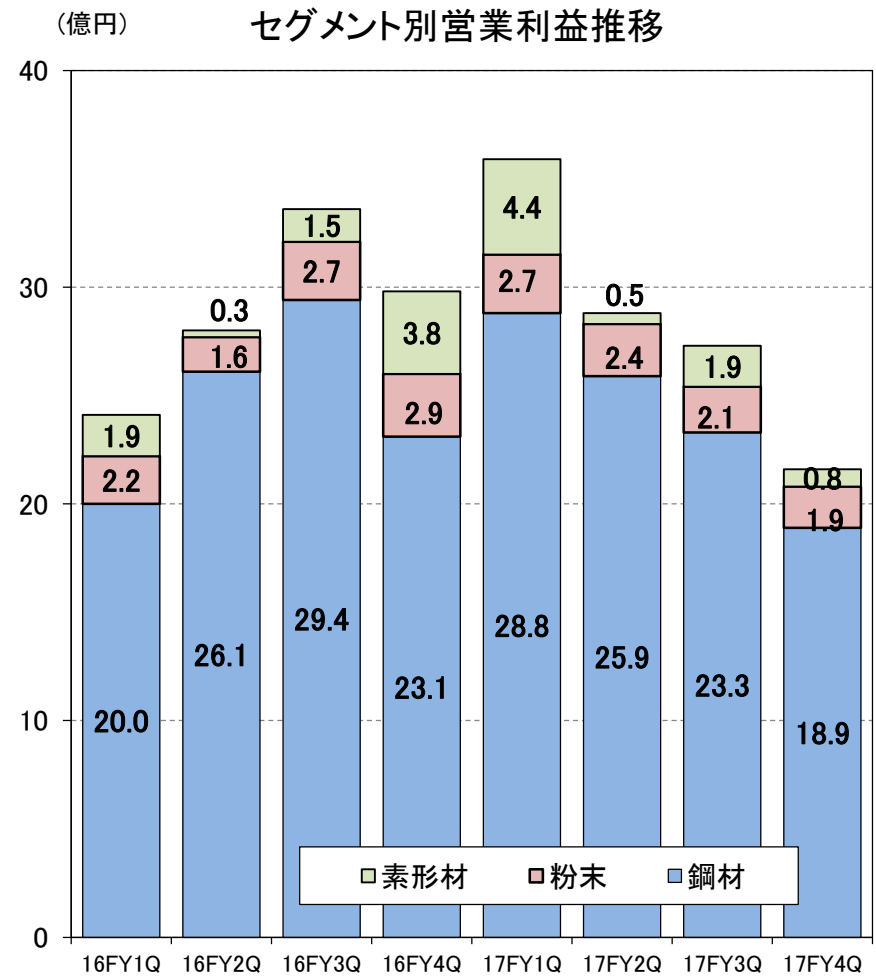
(注) 2017FYより、2017年4月1日付で実施した組織改正に伴い、「特殊材」事業に含めていた「特殊材料事業」及び「金属粉末事業」の内、「特殊材料事業」を「鋼材」事業に含め、従来の「特殊材」事業のセグメント名称を「粉末」事業に変更。

2016FYセグメント情報は、変更後のセグメント区分に基づき記載。

セグメント別損益推移(四半期)

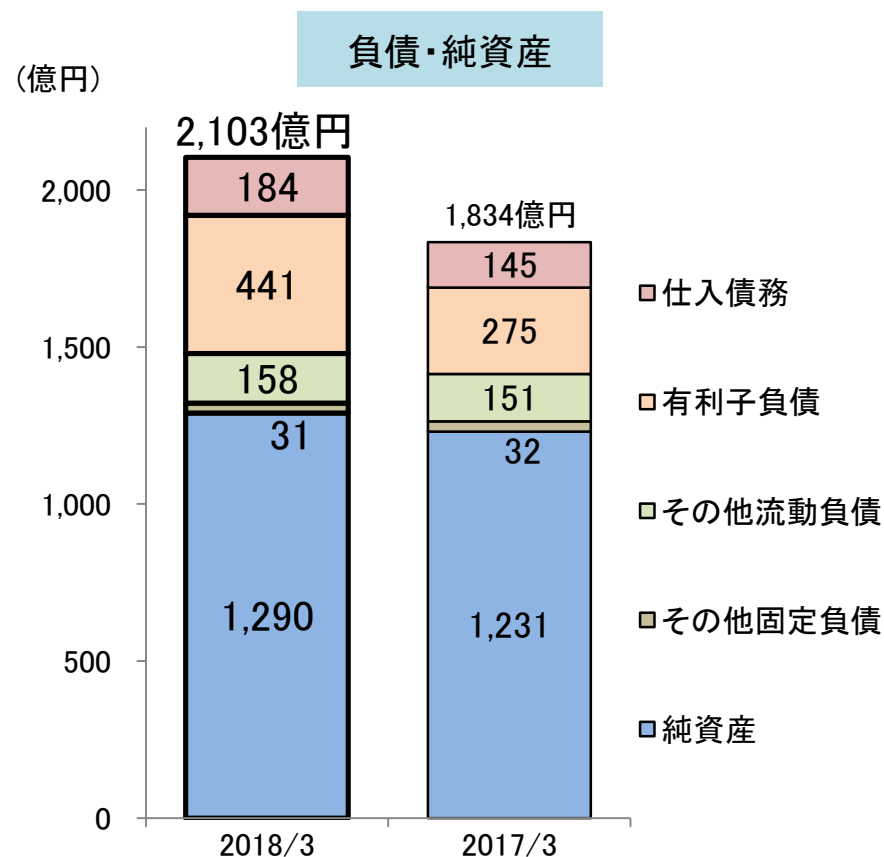
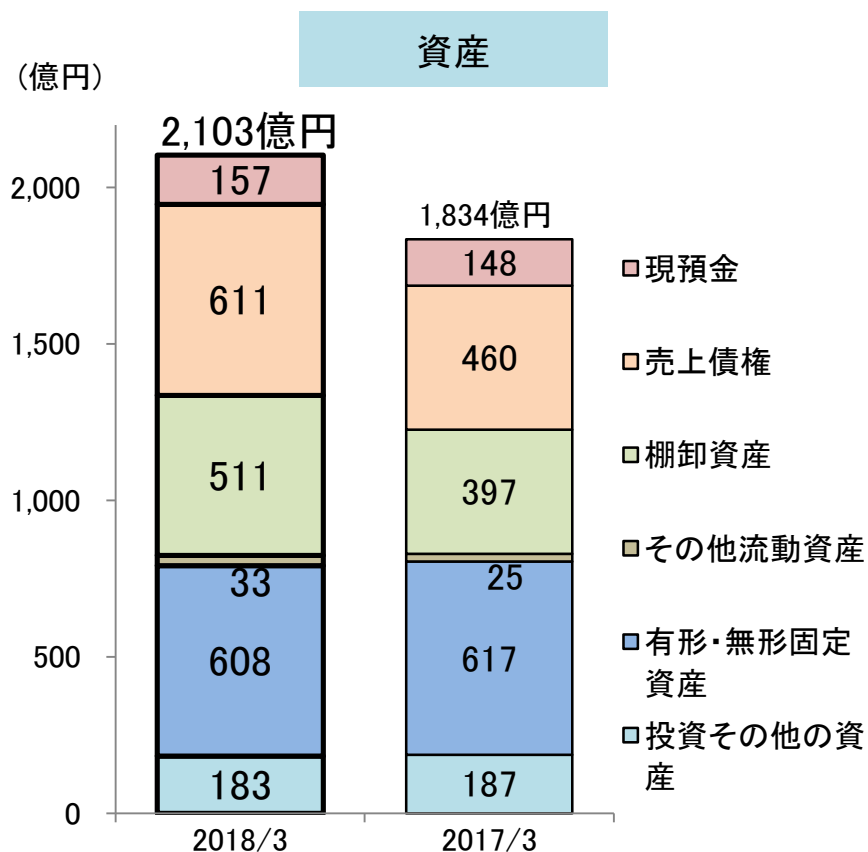


(注)内部取引等を含む。
変更後のセグメント区分で記載。



(注)内部取引等を含む。
変更後のセグメント区分で記載。

貸借対照表



資産の主な増減 +268億円

現預金 + 9億円：決算日銀行休日による影響(△36億円)
 売上債権 +150億円：決算日銀行休日による影響(+63億円)、
 売上増の影響など
 棚卸資産 +114億円：原燃料価格の上昇、在庫増の影響など

負債・純資産の主な増減 +268億円

仕入債務 +39億円：決算日銀行休日による影響(+13億円)、
 原燃料価格の上昇など
 有利子負債 +166億円：社債、借入による調達
 純資産 +58億円：利益の計上による利益剰余金の増など

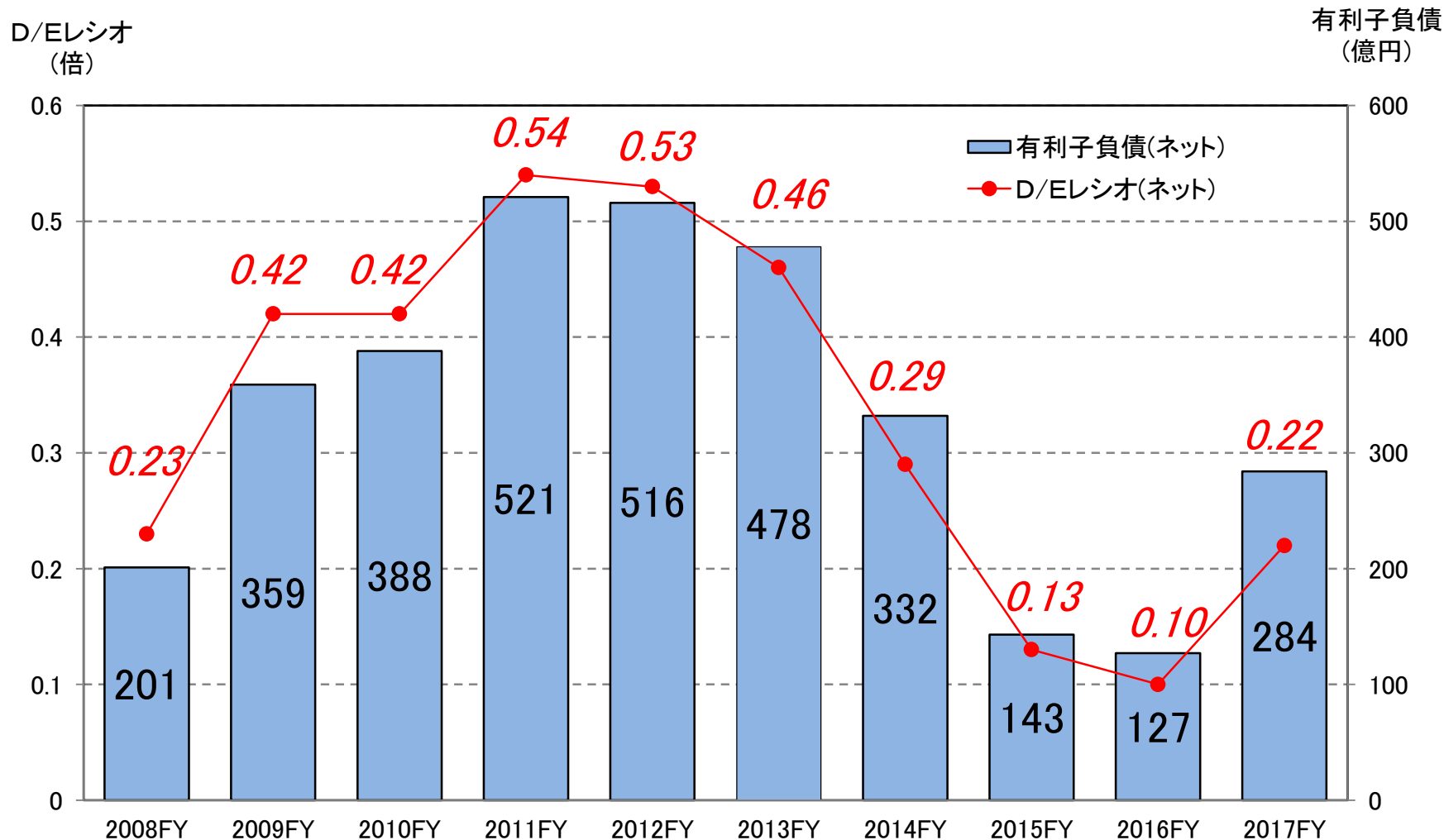
キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2013FY	2014FY	2015FY	2016FY	2017FY
営業活動によるC/F (A)	92	207	288	151	(注) △56
税金等調整前当期純利益	66	102	111	115	103
減価償却費	110	98	93	91	90
法人税等の支払または還付	13	△23	△48	△40	△37
運転資金等	△97	30	131	△15	△212
投資活動によるC/F (B)	△50	△59	△85	△111	△84
設備支出	△48	△68	△71	△107	△80
その他	△1	9	△14	△4	△4
フリー・キャッシュ・フロー(A+B)	42	148	203	39	△140
財務活動によるC/F (C)	△53	△174	△188	△108	147
借入金・社債・CPの増減	△49	△166	△167	△90	166
自己株式の取得または売却	△0	△0	△0	△0	△0
配当金の支払	△5	△8	△21	△18	△23
その他	—	—	—	—	4
換算差額 (D)	3	3	△2	△3	△0
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	△8	△23	13	△71	8

(注) 決算日銀行休日による影響補正後 △14億円

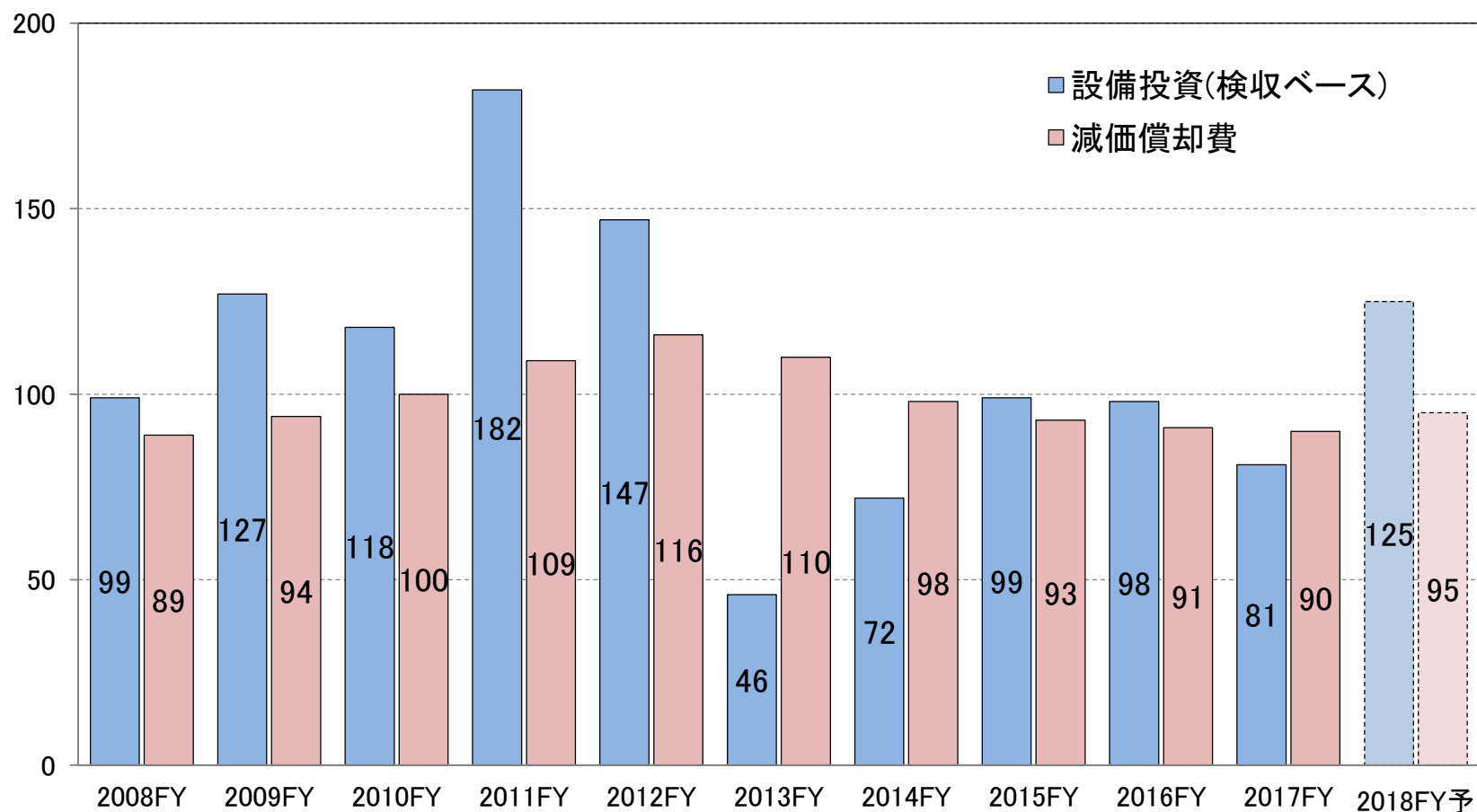
D/Eの推移



(注)第10次中期経営計画目標は、D/Eレシオ(ネット) 0.20

(参考)設備投資・減価償却費の推移

(億円)



期末配当金について

(参考)

	2017FY	2016FY
売上高	1,575億円	1,387億円
経常利益	107億円	117億円
当期純利益(注1)	70億円	78億円
1株当たり当期純利益(注2)	218.3円	241.5円
1株当たり年間配当(A)(注2)	58.5円/株	62.5円/株
【配当性向(年間)】	26.8%	25.9%
中間配当実施額(B)(注2)	33.5円/株	25.0円/株
期末配当実施額(A)-(B)(注2, 3)	25.0円/株	37.5円/株

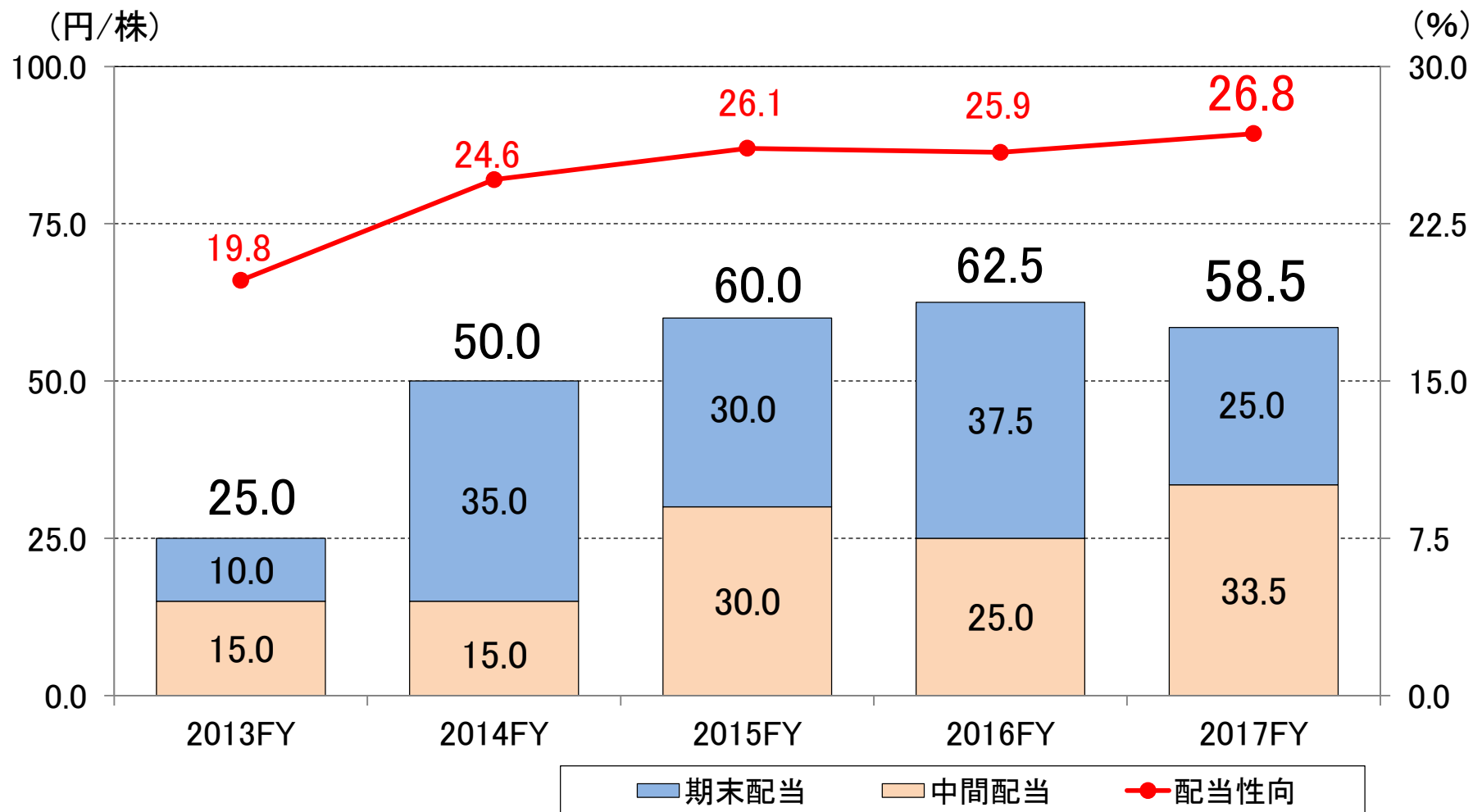
(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

(注2)2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

(注3)2017FY期末配当の効力発生日 2018年6月6日

<配当方針>
連結配当性向25～30%程度を基準とする

配当推移



(注) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

2018FY業績および配当予想

(単位:億円)

	18FY上期 (A)	18FY下期 (B)	2018FY通期 (C)=(A)+(B)		2017FY (D)		対2017FY (C)-(D)	
	金額	金額	金額	売上高 比率(%)	金額	売上高 比率(%)	金額	増減率 (%)
売上数量(千t/月) (注1)	96.5	103.0	99.8		89.1		+10.7	
売上高(注1)	900	950	1,850	100.0	1,575	100.0	+275	+17.5
営業利益	50	50	100	5.4	110	7.0	-10	-8.8
経常利益	45	45	90	ROS 4.9	107	ROS 6.8	-17	-15.6
当期純利益	31	31	61	3.3	70	4.5	-9	-13.3
配当(円/株)	27.0	27.0	54.0		58.5		-4.5	
配当性向(%)	—	—	28.5		26.8		+1.7	

(注1)子会社化予定のインドのMahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd. (MSSSPL)分を含む。

MSSSPL 売上数量13千t/月、売上高50億円/Q(2Qから加算)

(注2)当社によるMSSSPLの子会社化および新日鐵住金による当社の子会社化
検討開始に伴うのれんの発生等による業績への影響は、金額が未確定のため
本予想には織り込んでいない。

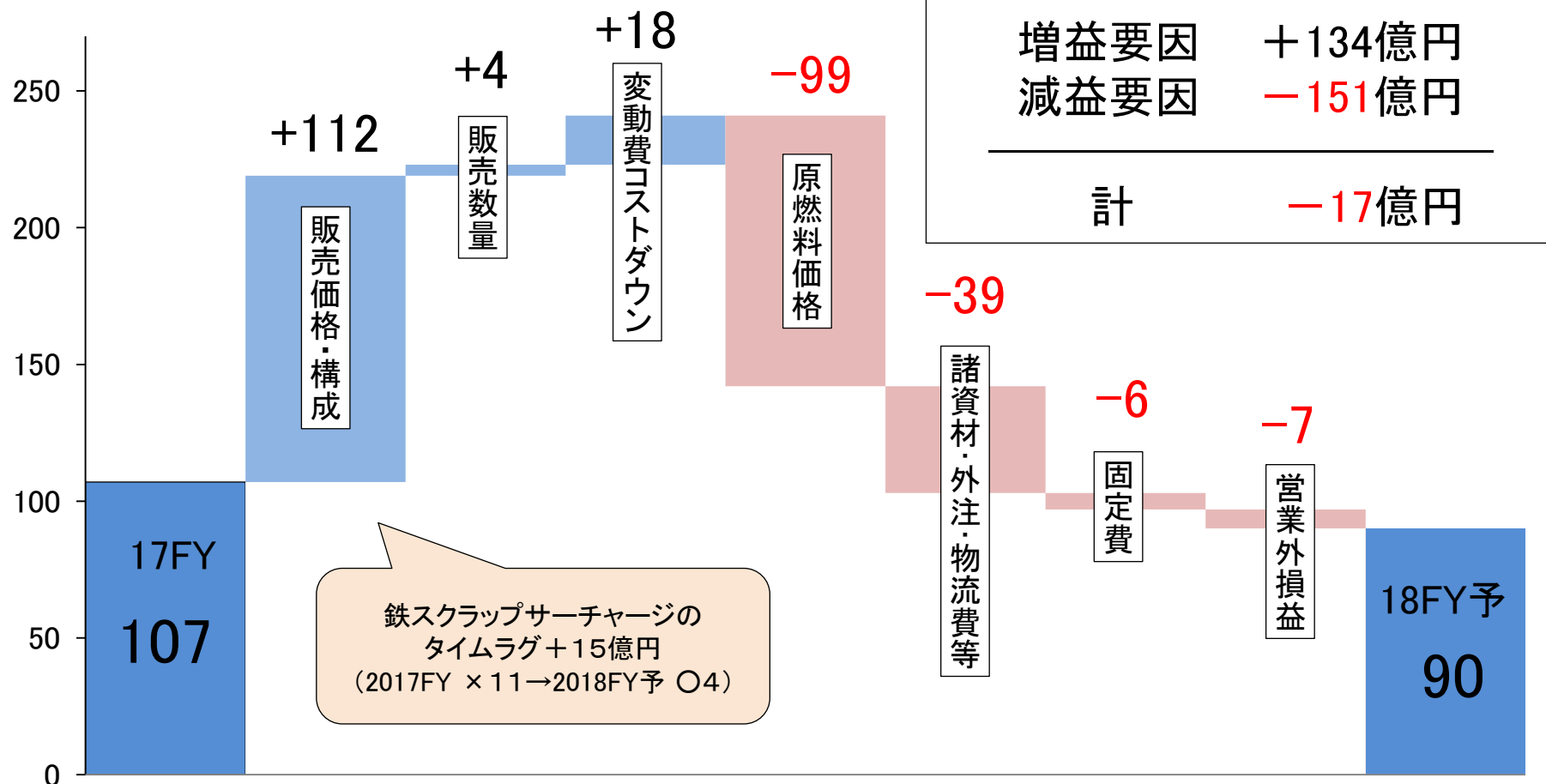
主要前提

- ・鉄スクラップ 32千円/t(姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 70\$/BL
- ・為替 105円/\$

経常利益の変化要因

2017FY(107億円) → 2018FY予想(90億円)(**-17億円**)

(億円)



財務指標の推移

		2013FY	2014FY	2015FY	2016FY	2017FY	10次中期
ROE(自己資本当期純利益率)	%	4.1	6.1	6.6	6.6	5.6	7.0
ROS(売上高経常利益率)	%	4.2	5.7	7.7	8.5	6.8	9.0
ROA(総資産経常利益率)	%	3.4	4.8	6.0	6.5	5.4	7.0
自己資本比率	%	50.2	55.8	62.4	66.7	60.7	
有利子負債(ネット)	億円	478	332	143	127	284	
D/Eレシオ(ネット)(注1)	倍	0.46	0.29	0.13	0.10	0.22	0.20
1株当たり当期純利益(注2)	円/株	126.0	203.0	230.0	241.5	218.3	
1株当たり純資産(注2)	円/株	3,167	3,498	3,483	3,797	3,961	
期末従業員数	人	2,775	2,706	2,625	2,598	2,666	

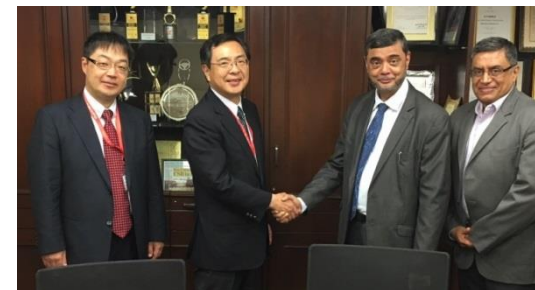
(注1) 有利子負債から返済に充当可能な現預金を差し引いた純有利子負債の、純資産に対する比率

(注2) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

その他のトピックス

(1) Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.を子会社化

- ・当社は、2012年9月にMSSSPL(※)に出資し、合併事業を開始。
- ・インドでの特殊鋼需要の拡大による市場の成長や日系等の顧客要求への対応を強化するためMSSSPLの株式を追加取得し、子会社化することを決定。
- ・国内外含めて、初の特殊鋼一貫製造・販売子会社となる。
- ・当社インド工場として品質・生産性・コスト・競争力でインドNo.1を目指す。
- ・2018年6月末までを目途に、株式取得予定。



【MSSSPLの概要】(※)

名称 : Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.
 所在地 : インド共和国 マハラシュトラ州
 設立 : 1962年(合併事業開始 2012年)
 売上高 : 約91億ルピー(約155億円) (注)
 売上数量 : 約12万8千トン (注)
 従業員数 : 約1,000名
 事業 : 特殊鋼製品の製造、販売
 主な製品 : 圧延品、鍛造品、鋼塊、素形材

(注) 2017年3月期(1ルピー=1.7円にて換算)



MSSSPLの外観

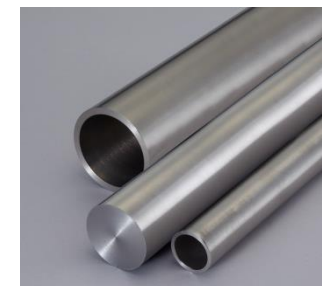


所在地

その他のトピックス

(2)新日鐵住金(株)による当社の子会社化等の検討開始

- ・両社は、当社子会社化の検討を開始。
- ・子会社化検討の目的
特殊鋼等の製造・販売において、自動車分野をはじめとした国内外の顧客のグローバル化の進展や様々なニーズへ対応するべく以下の体制整備を進める。
 - 1) 経営資源を持ち寄り、事業基盤と技術力を強化
 - 2) スウェーデンの特殊鋼メーカーであるOvako社(※)との3社連携も視野に入れたグローバル事業展開
- ・今後のスケジュール
 - 1) 2018年8月目途 正式契約の締結
 - 2) 2019年3月目途 当社の子会社化
- ・子会社化の具体的な方法、出資比率等については両社で検討し、協議が整い次第公表予定。
- ・当社は、子会社化後も上場維持予定。



【Ovako社の概要】(※)

名称 : Ovako AB
 所在地 : スウェーデン(本社)
 設立 : 17世紀より製鉄業開始
 売上高 : 約921百万ユーロ(約1,200億円)(注)

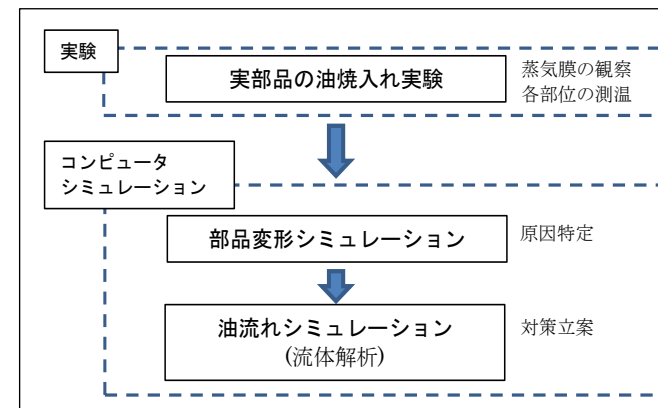
売上数量 : 約78万トン(注)
 従業員数 : 約3,000名
 事業 : 特殊鋼及び二次加工製品の製造・販売
 主な製品 : 圧延品、鍛造品等
 (注) 2017年12月期(1ユーロ=130円にて換算)

その他のトピックス

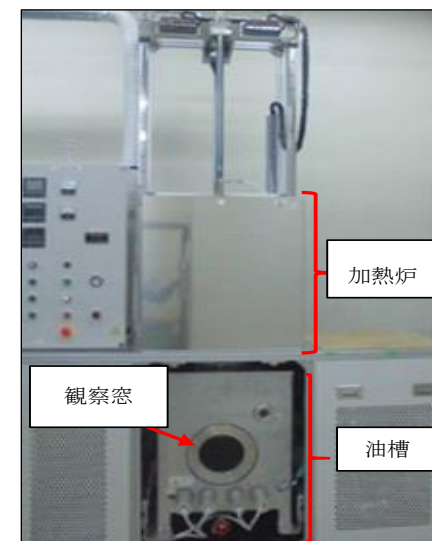
(3)熱処理変形シミュレーションシステムを開発

- ・当社は、熱処理実験とコンピュータシミュレーションを組合せた熱処理変形シミュレーションシステムを開発。
- ・自動車産業におけるEV化の進展等を背景に、ギヤ等の動力伝達部品の静粛性の改善のため、形状精度向上のニーズが高まっている。
- ・動力伝達部品には、強靱さと高い形状精度が要求されるため、油焼入れによる硬化熱処理が施されている。
- ・この焼入れ工程では、精密加工された部品が熱処理により不均一な変形を生じるという課題がある。
- ・このシステムは、実験とコンピュータシミュレーションにより構成され、部品の熱処理変形に関する原因特定と、変形抑制に向けた対策の提案が可能(図1参照)。
- ・このシステムの活用により、顧客先での部品の熱処理変形抑制による形状精度向上が期待される。

図1
熱処理変形シミュレーションシステムの概略図



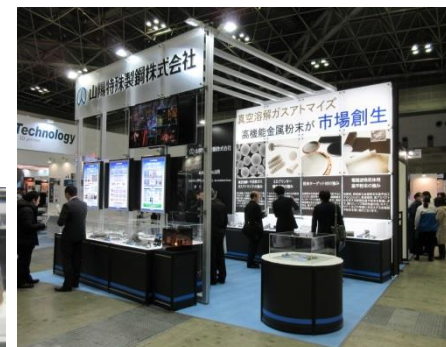
油焼入れ実験装置の外観



その他のトピックス

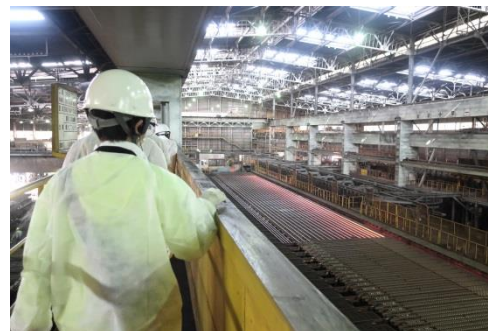
(4)3Dプリンティング2018へ出展

- ・2018年2月14日～16日に東京ビッグサイトにて開催。
- ・3D積層造形用粉末および造形サンプルなどを展示。
- ・当社ブースには、3日間で約900名の方が来場。



(5)個人株主向け工場見学会を開催

- ・2018年3月に開催。
- ・当社事業への理解を深めていただくことを目的に2007年より毎年開催。
- ・約40名が参加し、第二製鋼工場や第二棒線工場、5,000トンプレス工場を見学。





“特殊”だけど“身近”な「特殊鋼」



山陽特殊製鋼株式会社



<http://www.sanyo-steel.co.jp>

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



「さんとくん」
(当社キャラクター)